令和５年度

病院事業報告

熊本赤十字病院
JAPANESE RED CROSS KUMAMOTO HOSPITAL

熊本赤十字病院の基本理念

人道 ・ 博愛 ・ 奉仕の実践

私たちは、患者・地域・職員に寄り添い、安心と信頼の医療を届けます。

熊本赤十字病院理念に基づく基本方針

救急医療

救急医療を私たちの原点としてとらえ、全ての人に手を差し伸べます。

高度医療

診療の専門性を高め、時代に即した安全で質の高い医療を提供します。

人材育成

教育・研修を推進し、人間性豊かで将来を担う医療人を育成します。

地域連携

地域全体で協力し、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献します。

医療救援

地球的視野で災禍を見つめ、積極的に医療救援活動に取り組みます。

魅力創出

働きがいのある職場づくりを通して、ぬくもりのある病院を目指します。

患者さんの権利と責務について

〈患者さんの権利〉

1. 患者さんは、安全で良質な医療を公平公正に受ける権利があります。
2. 患者さんは、常にその人格を尊重される権利があります。
3. 患者さんは、診療に関して十分な説明と情報の提供を受け、理解できるまで質問する権利があります。
4. 患者さんは、自分の治療計画を立てる過程に参加し、自分の意思を表明し、自ら決定する権利があります。
5. 患者さんは、自分の病気の診断や治療について、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
6. 患者さんは、個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

〈患者さんの責務〉

1. 患者さんは、診療に必要な自分自身の健康状態に関する情報を、できるだけ正確に医療提供者に伝え、治療に協力する責務があります。
2. 患者さんは、すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、病院の規則を守り、医療の提供の妨げになる暴力行為や迷惑行為を行わない責務があります。
3. 患者さんは、適切な医療を維持するため、提供を受けた医療に対する診療費を支払う責務があります。

当院では、「日本赤十字社の保有する個人情報保護規程」に基づき、職員を対象とした「熊本赤十字病院個人情報保護規程」を作成し、個人情報保護の確実な履行に努めております。

令和４年度も、職員に対し院内説明会の実施や講演会を開催するなど個人情報の適切な取り扱いが確保できるよう努め、また、患者さんに対しては、当院の個人情報の保護に対する考え方を示した「個人情報の保護についてのお知らせ」を正面玄関及び救命救急センターの入口に立て看板として設置するとともに、各部署へのポスター掲示並びに入院・外来パンフレットへのリーフレット追加などを通じて、広く周知を行いました。

以下、当院ホームページでも公表しております「個人情報保護方針」及び「患者さんの個人情報の利用目的」について示します。

個人情報保護方針

当院は、「人道・博愛・奉仕の実践」という基本理念のもと、診療業務を行っております。

より安全で質の高い医療を提供していくためには、患者さんに関する様々な医療情報が必要です。

当院では、患者さんに安心して情報を提供していただくため、患者さんからお預かりした個人情報を安全に守るべきことを認識し、以下に個人情報保護方針を定め、確実な履行に務めます。

1. 個人情報の収集・利用・提供

個人情報を保護・管理する体制を確立し、適切な個人情報の収集、利用および提供に関する内部規則を定め、これを遵守します。

２. 個人情報の安全対策

個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などに関する万全の予防措置を講じます。万一の問題発生時には速やかな是正対策を実施します。

３. 個人情報の確認・訂正・利用停止

当該本人（患者さん）等からの内容の確認・訂正あるいは利用停止を求められた場合には、当院の内部規則により、調査の上適切に対応します。

４. 個人情報に関する法令・規範の遵守

個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。

５. 教育および継続的改善

個人情報保護体制を適切に維持するため、職員の教育・研修を徹底し、内部規則を継続的に見直し、改善します。

６. 個人情報の提供・開示

患者さんの個人情報について患者さんが開示を求められた場合には、遅滞なく内容を確認し、当院の内部規則に従って対応いたします。

７. 問い合わせ窓口

個人情報に関するお問い合わせは、以下の個人情報相談窓口においてお受けいたします。

「個人情報保護相談窓口」　医療社会事業課

患者さんの個人情報の利用目的

1. 院内での利用

1. 患者さんに提供する医療サービス
2. 医療保険事務
3. 入退院等の病棟管理
4. 会計・経理
5. 医療事故等あるいは事故未然防止等の報告、分析
6. 患者さんへの医療サービスの向上
7. 院内医療実習への協力
8. 医療の質の向上を目的とした院内症例検討、研究
9. その他患者さんにかかる管理運営業務

2. 院外への情報提供としての利用

1. 他の病院、診療所、助産院、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との連携
2. 他の医療機関等からの照会への回答
3. 患者さんの診療のため、外部の医師等の意見・助言を求める場合
4. 検体検査等の業務委託
5. 医療支援に関する患者さんご本人へのご案内
6. ご家族等への病状説明
7. 保険事務の委託
8. 審査支払機関へのレセプトの提供
9. 審査支払機関または保険者からの照会への回答
10. 審査支払機関または保険者への照会
11. 事業者等から委託を受けた健康診断にかかる事業者等へのその結果通知
12. 医師賠償保険等にかかる医療に関する専門団体や保険会社等への相談や届出
13. 国または地方公共団体等への公益性を優先する場合の情報提供
14. その他患者さんへの医療保険事務に関する利用

3. その他の利用

1. 医療・介護サービスや業務の維持・改善のための基礎資料
2. 外部監査機関への情報提供
3. 医学研究及び学術研究（学会発表等）のための資料

令和５年度 病院のあゆみ

令和５年 ４月

1 日　組織改正（新設）
　　「大腸外科部」「肝胆膵外科部」「移植外科部」「病院前救急診療科部」
　　「臨床工学部」「臨床工学部　第二臨床工学課」「臨床工学部　第三臨床工学課」
　　「入院業務課　体制再編係」「企画開発課　ＤＸ推進係」「器材管理課　器材管理係」
〃　「臨床工学課」から「第一臨床工学課」へ名称変更
〃　「脳神経・外傷外科部」から「脳神経外傷外科部」へ名称変更
〃　「集中治療部」から「集中治療科部」へ名称変更
〃　「腎臓内科部　臨床工学課　臨床工学係」「第二小児外科部」
　　「リハビリテーション科部　第一リハビリテーション課　第三理学療法係」を廃止
〃　「臨床工学課」および傘下の５係を「第一臨床工学課」「第二臨床工学課」「第三臨床工学課」へ組織変更し、各課の傘下に各係を置く
〃　「第一臨床工学課」「第二臨床工学課」「第三臨床工学課」を腎臓内科部から臨床工学部へ組織変更
3 日　令和5年度日本赤十字社熊本県支部入社式（赤十字会館）
〃　令和5年度新規採用職員研修会（～4/7 ）

５月

1 日　創立記念日
15 日　看護の日(ナイチンゲール献花祭)

７月

1 日　集中治療科によるＩＣＵ常駐、ＩＣＵ/ＧＩＣＵ入退室管理体制稼働
6 日　輸血機能評価認定制度(inspection and accreditation : I＆A)受審

８月

1 日　熊本県「紹介受診重点医療機関」指定

９月

2 日　多数傷病者受入机上訓練
　　多数傷病者受入れの机上訓練／第一救急科部長・奥本克己
　　地域救急・災害医療学講座助教　小原隆史

１０月

1 日　「外来業務課　保険請求係」を新設
〃　第16回熊本赤十字病院地域医療連携の会
28～29 日　全国ブロック赤十字スポーツ大会（名古屋）／軟式野球・フットサル・硬式テニス・駅伝
29 日　「世界脳卒中デー」インディゴブルーライトアップ

１１月

9～10 日　日本赤十字社医学会総会（京都）
12 日　赤十字フェスタ（イオンモール熊本）
15 日　卒後臨床研修評価機構受審
20 日　ボランティア永年功労表彰・ボランティアの会総会研修会

１２月

7 日　令和 5年度特定行為看護師活動報告会
10 日　多数傷病者受入実働訓練／災害対策本部立ち上げ及び関係各機関との連携
　　／新設部署立ち上げ及び患者受入れ、既存部署立ち上げ及び患者受入れ
20 日　日赤医療連携フォーラム
22 日　キャンドルサービス
27 日　特定行為研修修了式
28 日　仕事納め式

令和６年 １月

1 日　「小児腎臓科部」「小児消化器・肝臓科部」を新設
　　看護部「救急係」「外来係」「各病棟係」「手術室係」を廃止
　〃　能登半島地震発生
4 日　仕事始め式
　〃　令和6年能登半島地震災害対策本部立ち上げ
9 日　令和6年能登半島地震　救護班(第1班)　～1/14
　　国際医療救援副部長　城下　卓也
　　第一救急科部長　加藤　陽一
　　看護師長　竹下　美子
　　看護係長　井野　朋美
　　看護主任　小林　賢吾
　　薬剤師　上田　賢太郎
　　経営企画係長　石本　健太
　　主事　小森田　智治
13 日　令和6年能登半島地震　救護班(第2班)　～1/17
　　国際医療救援副部長　杉本　卓哉
　　総合内科医師　竹熊　梨祐
　　看護師長　島津　千秋
　　看護係長　早川　佳奈美
　　看護主任　枝川　雄樹
　　調剤課長　合澤　啓二
　　入院業務課長補佐　須本　大二郎
　　主事　井上　尚樹
15 日　令和6年能登半島地震　給水支援事業調査チーム　～1/19
　　救援課長　曽篠　恭裕
　　腎センターＣＥ係長　黒田　彰紀
　　主任　平岡　祐介
17 日　令和6年能登半島地震　日赤災害医療コーディネートチーム（第１班）　～1/23
　　国際医療救援部長　岡村　直樹
　　看護主任　足立　雅彦
　　診療放射線技師　岩崎　雄太
19 日　令和6年能登半島地震　給水支援事業資機材設置班　～1/23
　　腎センターＣＥ係長　黒田　彰紀
　　主任　平岡　祐介
27 日　令和6年能登半島地震　こころのケア調整班　～2/4
　　公認心理師　永田　裕子
31 日　令和6年能登半島地震　救護班(第3班)　～2/5
　　外傷外科副部長　寺住　恵子
　　ﾘｳﾏﾁ・膠原病内科副部長　徳永　健一郎
　　看護係長　森　美幸
　　看護師　蓮池　誉子
　　医薬情報係長　岩田　一史
　　主事　村川　晋
　　主事　中野　航汰

２月

1 日　「がんゲノム医療連携病院」指定
7 日　令和6年能登半島地震　こころのケア班（第１班）　～2/13
　　看護係長　上野　珠美
　　看護主任　上野　史津子
　　主事　荒牧　巌

16 日 令和6年能登半島地震　救護班(第4班)　～2/21
第一小児科副部長　余湖　直紀
第一産婦人科副部長　村上　望美
看護師長　上村　幸子
看護師　毛利　景子
薬剤師　古庄　弘和
交通事故係長　前田　大介
事務　西山　天翔
主事　村田　静哉
18 日 令和6年能登半島地震　日赤災害医療コーディネートチーム（第2班）　～2/24
第二救急科部長　山家　純一
看護師　澤邉　英孝
主事　伊藤　龍馬
27～28 日 病院機能評価受審（本審査）
28 日 令和6年能登半島地震　車両・資機材撤収班　～3/1
主事　中嶋　雄三
29 日 病院機能評価受審（高度・専門機能）

3月

9 日 「脈の日」レッドライトアップ
13 日 令和6年能登半島地震　こころのケア班（第2班）　～3/19
看護師長　パンター　尚美
主事　諏訪　日光
16 日 令和6年能登半島地震　被災地医療機関支援　～3/23
看護師　松山　真美
令和6年能登半島地震　こころのケア調整班　～3/29
公認心理師　永田　裕子
22 日 卒後臨床研修修了式

令和５年度　院内開催講演会・研修会（抜粋）

開催日	研修会名	内容
4/3	日赤熊本新入職員研修会	赤十字について、日赤熊本について、災害救護、国際活動等
4/4	病院職員新入職員研修会	院内感染対策、医療安全対策　等
5/8	昇任者研修会（医師部長・課長・師長）	幹部講話、昇任者抱負発表　等
5/9	昇任者研修会（医師副部長・課長）	幹部講話、昇任者抱負発表　等
5/17	新入職員追加研修①	病院の基本方針について（高度医療、教育研修・魅力創出、地域連携、救急医療）
5/25	第1回ＩＣＴ地域連携カンファレンス	「コロナ5類感染症移行時の問題点」等
5/25	診療報酬改定に係る講習会	令和6年度診療報酬の動向～熊本赤十字病院は「働き方改革」＋「医療DX改定」にいかに対応するか～　／日本血液製剤機構　事業戦略部　谷澤正明
5/26	日赤熊本常備救護班基礎研修会	日赤の救護活動について、災害概論、グループワーク
6/1	新入職員追加研修②	ハラスメント・コンプライアンス／高島法律事務所・弁護士　高島剛一 コミュニケーション・アサーション／肥銀ビジネス教育㈱　鶴田陽子
6/22	第1回医療安全研修会	もし、医療事故が起こったら～初期対応について～
6/23	新入職員追加研修③	ワールドカフェ、メンタルヘルス／KMJメンタルアシスト・松下弘子
6/28	リーダー養成研修会（ステップ2）	チームリーダーとしての役割認識、後輩を動機づけ・育成する力を養う、アクションプランの設定／肥銀ビジネス教育㈱講師　酒井一州
6/28	日赤医療連携フォーラム	テーマ「脳卒中を語る」　　パネルディスカッション：予後につなげる連携と取り組み
6/29	病院機能評価受審に係る講演会	病院機能評価受審の目的及び本審査（３ｒｄG:Ver.3.0）の概要説明 ／日本医療機能評価機構　客員研究主幹　梅里良正
7/12	リーダー養成研修会（ステップ１）	期待される役割の理解、主体的に業務を遂行する力、後輩との信頼関係構築、アクションプラン設定／肥銀ビジネス教育㈱　鶴田陽子
7/15	KUMAMOTO　GIM 2023	フィジカル診断エクセレンス／群星沖縄臨床研修センター長　徳田安春
7/23	熊本赤十字病院　緩和ケア研修会	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会開催指針に準拠した研修
8/10	第1回児童虐待対応に関する研修会	①児童虐待対応について～マニュアル紹介～　②委員会活動紹介
8/17	新入職員追加研修④	医療安全について／弁護士・岡部真勝　　接遇研修／中野由美 診療報酬制度
8/18	移植医療に関する講演会（熊本県臓器提供施設連携体制構築事業）	今、求められるドナー管理-重大な意思決定を行う時間を作るために-／岡山大学病院　救命救急・災害医学講座　教授・中尾篤典 終末期に関わる患者の権利／岡山大学　地域救急・災害医療学講座　助教・小原隆史
8/21	総合内科　内科講義　特別臨床講演	電解質異常マネジメント～低Na血症編～／聖マリアンナ医科大学　助教　緒方聖友
8/24	日赤医療連携フォーラム（循環器・心外）	テーマ：入院関連機能紹介（ＨＡＤ）の是正について考えよう～病院と在宅の情報共有と相互理解～
8/30	認知症に関する院内講演会	「その人らしさ」とは何か～認知症を脳科学する ／東京大学大学院　総合文化研究科特任研究員　恩蔵絢子
8/31	第2回ＩＣＴ地域連携カンファレンス	感染症発生件数　令和5年度4月～6月分　など
9/1	総合鏡視下手術センター　院内講演会	術者・助手・医師のスキル／四谷メディカルキューブ　婦人科部長　羽田智則
9/5	第2回移植医療に関するWEB講演会（熊本県臓器提供施設連携体制構築事業）	異種移植の展望～臨床応用まで何年かかるか～／ﾊｰﾊﾞｰﾄﾞ大学附属ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ総合病院　移植研究センター研究員　木下航平
9/14	医療連携研修会「せん妄予防・対策ケア」	症例検討会「せん妄でつながる地域連携」
9/23	全職種合同10年目研修会	あなたのキャリアデザインを考えよう！ ／キャリアデザイン工房オフィスUEMURA　上村眞智子
9/26	第1回心肺蘇生実技講習	全職種対象蘇生教育
10/11	第2回児童虐待対応に関する講演会	地域における子ども虐待予防ネットワークづくり～多職種が持つべき視点と顔の見える連携協働のために必要なこと～／医療法人井上小児科医院　名誉理事長　井上登生
10/21	臨床倫理研修会	MCD(moral case deliberation)臨床倫理における具体的な問題の解決方法 ／熊本大学大学院　生命倫理学分野　教授　門岡康弘
10/23	ＮＳＴ特別講演会	急性期と回復期の栄養管理～それぞれのNSTを経験して～／熊本リハビリテーション病院　リハビリテーション科　堀耕太
10/23	新入職員追加研修⑤	レジリエンス向上研修／肥銀ビジネス教育㈱　鶴田陽子
10/26	がんゲノム医療研修会	遺伝的課題を持つ人々へのケア～全ての医療者に伝えたいメッセージ～（遺伝医療と遺伝カウンセリング、各診療領域における遺伝医療、遺伝性乳がん卵巣がんの事例を通して考える）／熊本大学大学院生命科学研究部　准教授　柊中智恵子

開催日	研修会名	内容
10/27	教育研修推進室企画セミナー「救急現場における緊急ＡＣＰセミ	どこまで治療をするべきか?の考え方・患者家族への話し方～救急・集中治療領域の緩和ケア～／麻生飯塚病院　連携医療緩和ケア科　医長　石上雄一郎
10/31	第2回心肺蘇生実技講習	全職種対象蘇生教育
11/7	腎代替療法に関する研修会	日本の献腎移植の現状と熊本県の取り組み、臓器移植ネットワークの登録手続きの実際、献腎移植手術（周術期の問題点）、新規登録および更新の際の問題点
11/30	第1回RRS研修会	RRS（Rapid Response System）の目的、起動方法等
11/30	第3回ＩＣＴ地域連携カンファレンス	コロナウイルス感染病棟発生を想定した机上訓練　防護服（タイベック）の着脱訓練
12/1	第3回移植医療に関する講演会（熊本県臓器提供施設連携体制構築事業）	入院時重症患者対応メディエーター～その役割と移植医療推進への期待～／富山大学附属病院　副病院長　長島久
12/10	多数傷病者受入実働訓練	災害対策本部立ち上げ及び関係各機関との連携、新設部署立ち上げ及び患者受入れ、既存部署立ち上げ及び患者受入れ
12/14	改善活動報告会「第３回ＴＱＭ大会」	各部署改善活動発表
12/15	救急・集中治療勉強会	心肺脳蘇生の本質とこれから／鹿児島市立病院　救急科科長　鹿野恒
12/15	臨床倫理講演会	脳死は人の死か?心臓死が人の死なのか?～人はどこまで救えるのか、そして救えないとき私たちに何ができるのか～／鹿児島市立病院　救急科科長　鹿野恒
12/23	熊本県災害医療コーディネート研修	熊本県の災害医療体制、災害被害想定俯瞰、情報の整理と課題抽出、チーム運営演習　等／災害医療ACT研究所　代表　森野一真
12/25	第3回心肺蘇生実技講習	全職種対象蘇生教育
12/28	ハラスメント研修会	本社提供のハラスメント研修動画を用いた研修会
1/23	熊本赤十字病院薬剤部　薬薬連携セミナー	リウマチ領域における新規治療、妊娠と薬外来の紹介
1/31	第2回医療安全研修会	各部署取り組み発表
2/2	個人情報保護研修会	医療従事者のための個人情報保護解説／岡部真勝法律事務所　弁護士　岡部真勝
2/3	法的脳死判定シミュレーション研修会（院内体制整備支援事業）	脳死下臓器提供の流れ、法的脳死判定準備、法的脳死判定　等
2/13	第2回感染対策研修会	非”専門家”のためのHIV感染症との関わり方／国立病院機構東埼玉病院　臨床研究部長　塚田訓久
2/15	第2回RRS研修会	RRSの目的、起動方法　等
2/17	KUMAMOTO　GIM　2024	講義「急性期から緩和までヒトを診る～明日から役立つショートレクチャー集～」／総合内科レジデント、特別講義／群星沖縄臨床研修センター　センター長　徳田安春
3/1	移植医療に関するWEB講演会（熊本県臓器提供施設連携体制構築事業）	最近の国内の移植医療推進に向けた取組について／厚生労働省健康局難病対策課　移植医療対策推進室　室長補佐　吉川美喜子
3/2	熊本県地域災害医療コーディネート研修	熊本県の災害医療体制、地域災害医療コーディネーターの活動、保健医療調整現地本部の構成と役割、地域災害医療コーディネーターの役割／熊本リハビリテーション病院　医師　堀耕太　他
3/6	新入職員追加研修⑥	自己理解と自己成長／肥銀ビジネス教育㈱　鶴田陽子
3/7	管理職集合研修：心理的安全性について	心理的安全性の高い職場作り、部下との適切なコミュニケーション／㈱リスキル・渋谷三代子
3/12	日赤循環器・心外医療連携フォーラムCROSS　LETTER　ライブ	標準治療と東洋医学のクロス効果　　循環器×東洋医学
3/14	第4回ＩＣＴ地域連携カンファレンス	外来での抗菌薬適正使用について、核施設における感染症発生状況、手指消毒薬の使用状況、抗菌薬使用状況の推移　等
3/14	化学療法地域連携研修会	分子標的薬（EGFR-TKI）の副作用対策について、保険薬局との連携に向けた連携シートの改訂～アンケート調査の報告～
3/22	医薬品・医療機器・放射線等安全管理研修会	医薬品副作用被害救済制度について、いま医療機器管理に求められる一元化～人と情報～、放射線診療と医療被ばくについて
3/25	第2回保険診療に関する講習会	令和6年度診療報酬改定について／株式会社ニチイ学館　増永清子

1　概要

（1）名　　称　　熊本赤十字病院
（2）所　在　地　　熊本市東区長嶺南二丁目 1 番 1 号
（3）開設年月日　　昭和 19 年 4 月　（現在地移転　昭和 50 年 4 月 30 日）
（4）許可病床数　　一般　490 床 (平成 24 年 5 月 1 日～)
（5）標榜診療科　　内科　腎臓内科　糖尿病内科　リウマチ科　血液・腫瘍内科　精神腫瘍科
（32 科）　脳神経内科　呼吸器内科　消化器内科　循環器内科　小児科　外科
呼吸器外科　乳腺内分泌外科　整形外科　脳神経外科　心臓血管外科
小児外科　形成外科　皮膚科　泌尿器科　産婦人科　眼科　耳鼻いんこう科
リハビリテーション科　放射線科　放射線治療科　麻酔科　歯科
歯科口腔外科　救急科　病理診断科

2　施設認定状況

令和 6 年 4 月 1 日現在

（1）医療機関の指定等

救命救急センター
救急告示病院
小児救命救急センター
小児救急医療拠点病院
熊本県ドクターヘリ基地病院
基幹災害拠点病院
熊本ＤＭＡＴ指定病院
臨床研修指定病院
地域医療支援病院
地域周産期母子医療センター
地域がん診療連携拠点病院
健康保険医療機関指定病院
国民健康保険療養取扱指定病院
生活保護指定医療機関
結核指定医療機関
身体障害者福祉法による更生医療指定病院
児童福祉法による育成医療養育医療指定病院
母体保護法による医療指定病院
労働者災害補償保険法による医療指定病院
特定疾患治療研究医療機関
小児慢性特定疾患治療研究医療機関
児童福祉施設等の措置医療機関
原子爆弾被爆者の一般疾病指定医療機関
身体障害者作業療法の施設基準承認病院
身体障害者運動療法の施設基準承認病院
がんゲノム医療連携病院

（2） 学会専門医等施設認定

【基本領域専門研修プログラム】

（基幹施設）

内科　産婦人科　救急科　総合診療科　外科

（連携施設）

内科　産婦人科　救急科　総合診療科　外科　小児科　整形外科　脳神経外科　形成外科
皮膚科　泌尿器科　眼科　耳鼻科　放射線科　麻酔科　病理　リハビリテーション科

【Subspecialty 領域専門医】

日本消化器病学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本血液学会認定専門研修認定施設
日本腎臓学会研修施設
日本感染症学会専門医制度認定研修施設
日本神経学会専門医制度教育施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本小児外科学会教育関連施設
日本リウマチ学会教育施設
日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
生殖医療専門医制度研修連携施設
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本手外科学会研修施設
日本集中治療医学会専門医研修施設　集中治療部・小児集中治療室

【その他教育施設】

日本消化器内視鏡学会指導施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本核医学会専門医教育病院
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
日本臨床細胞学会認定施設
日本IVR学会専門医修練施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設B
日本脈管学会認定研修施設
日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療後期研修プログラム施設
日本臨床腫瘍学会認定研修連携施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本胆道学会指導施設
日本乳癌学会関連施設
日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設
日本航空医療学会指定施設

日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本認知症学会教育施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本心臓血管麻酔専門医認定施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本外傷外科学会外傷専門医研修施設
日本頭痛学会認定教育施設
日本臨床工学技士会認定臨床実習指導施設
認定輸血検査技師制度指定施設
日本脳神経外傷学会認定研修施設
日本急性血液浄化学会認定指定施設
日本病院総合診療医学会病院総合診療専門医研修施設
日本東洋医学会研修施設
日本臓器移植ネットワーク腎移植施設・透析施設
日本炎症性腸疾患学会指導施設
日本高気圧環境・潜水医学会認定施設
日本胃癌学会認定施設
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師暫定研修施設

【医療チーム】
日本栄養療法推進協議会認定NST（栄養サポートチーム）稼動施設
日本栄養治療学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設

【実施施設等】
植込型補助人工心臓実施施設（成人）
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本形成外科学会乳房増大エキスパンダー及びインプラント実施施設
子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘手術登録施設
日本脳卒中学会一次脳卒中センター

（3） 第三者機関評価認定

病院機能評価認定病院　3rdG Ver.2.0（機能種別：一般病院2）及び
付加機能評価（救急医療機能Ver.2.0）
卒後臨床研修評価機構臨床研修評価認定病院
ISO15189認定病院
日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（Ｉ＆Ａ制度）認証施設

（4） 厚生労働省告示に基づく承認事項

◆DPC（診断群分類別包括評価制度）対象病院

◆入院基本料　急性期一般入院料１

◆入院基本料加算　急性期充実体制加算
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算１
医師事務作業補助体制加算１（15対1）
急性期看護補助体制加算（25対1・看護補助者5割以上）
　夜間100対1急性期看護補助体制加算
　夜間看護体制加算
　看護補助体制充実加算
看護職員夜間配置加算（12対1配置加算1）
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算２
がん拠点病院加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算１
　医療安全対策地域連携加算１
感染対策向上加算１
　指導強化加算
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
呼吸ケアチーム加算
後発医薬品使用体制加算１
病棟薬剤業務実施加算１、２
データ提出加算２
入退院支援加算１
　地域連携診療計画加算
　入院時支援加算
認知症ケア加算１
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算１、２
地域医療体制確保加算

◆特定入院料　救命救急入院料１（救急体制充実加算1、小児加算）
特定集中治療室管理料２(小児加算)
　（早期離床・リハビリテーション加算）
脳卒中ケアユニット入院医療管理料

小児特定集中治療室管理料
（早期離床・リハビリテーション加算）（早期栄養介入管理加算）
小児入院医療管理料１（プレイルーム加算）
　養育支援体制加算
　時間外受入体制強化加算

◆短期滞在手術等基本料
短期滞在手術等基本料１（麻酔を伴う手術を行った場合以外）

◆看護職員処遇改善評価料
看護職員処遇改善評価料

◆医学管理
外来栄養食事指導料の注２、注３
心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）
心臓ペースメーカー指導管理料（遠隔モニタリング加算）
慢性維持透析患者外来医学管理料（腎代替療法実績加算）
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
移植後患者指導管理料（臓器移植後の場合）
小児運動器疾患指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
二次性骨折予防継続管理料１、３
下肢創傷処置管理料
地域連携小児夜間・休日診療料２
院内トリアージ実施料
外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料１
　連携充実加算
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
ハイリスク妊産婦連携指導料１
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料１
医療機器安全管理料２

◆在宅
在宅患者訪問看護・指導料
同一建物居住者訪問看護・指導料
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料

持続血糖測定器加算
（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）

◆検査
造血器腫瘍遺伝子検査
遺伝学的検査の注
骨髄微小残存病変量測定
BRCA1/2遺伝子検査　１腫瘍細胞を検体とするもの
BRCA1/2遺伝子検査　２血液を検体とするもの
がんゲノムプロファイリング検査
先天性代謝異常症検査
抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び
　抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ｉ）
検体検査管理加算（IV）
国際標準検査管理加算
遺伝カウンセリング加算
植込型心電図検査
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
皮下連続式グルコース測定
神経学的検査
コンタクトレンズ検査料１
小児食物アレルギー負荷検査
CT透視下気管支鏡検査加算

◆画像診断
画像診断管理加算２
CT撮影及びＭＲＩ撮影
冠動脈ＣＴ撮影加算
外傷全身CT加算
大腸CT撮影加算
心臓ＭＲＩ撮影加算
乳房ＭＲＩ撮影加算
小児鎮静下MRI撮影加算
頭部MRI撮影加算
肝エラストグラフィ加算

◆投薬
抗悪性腫瘍剤処方管理加算

◆注射
外来化学療法加算１
無菌製剤処理料

◆リハビリテーション
心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ）　（初期加算）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ）　（初期加算）
廃用症候群リハビリテーション料（Ｉ）　（初期加算）
運動器リハビリテーション料（Ｉ）　（初期加算）
呼吸器リハビリテーション料（Ｉ）　（初期加算）
がん患者リハビリテーション料
リンパ浮腫複合的治療料

◆処置

医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算１、
　時間外加算１、深夜加算１
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
多血小板血漿処置
エタノールの局所注入（甲状腺）
エタノールの局所注入（副甲状腺）
人工腎臓１
　導入期加算３
　透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
　下肢末梢動脈疾患指導管理加算
酸素の購入単価

◆手術

医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6
　（歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む）に掲げる手術
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算１、
　時間外加算１、深夜加算１
皮膚移植術（死体）
自家脂肪注入
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
脊髄刺激装置植込術または脊髄刺激装置交換術
内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）
　及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
乳がんセンチネルリンパ節加算１及び２
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除
　又は１肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
経皮的冠動脈形成術
　（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの）
　（エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの）
経皮的冠動脈ステント留置術
胸腔鏡下弁形成術
経カテーテル大動脈弁置換術
胸腔鏡下弁置換術
経皮的僧帽弁クリップ術
経皮的中隔心筋焼灼術

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
（リードレスペースメーカーの場合）
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び
両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は
皮下植込型のリードを用いるもの）及び
植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び
両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
補助人工心臓
植込型補助人工心臓（非拍動流型）
経皮的大動脈遮断術
経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
ダメージコントロール手術
内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)）
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)）
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術）
胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
胆管悪性腫瘍手術
（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
体外衝撃波胆石破砕術（一連につき）
腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）
腹腔鏡下肝切除術（亜区域切除、１区域切除（外側区域切除を除く。）、
２区域切除及び３区域切除以上のもの）
体外衝撃波膵石破砕術（一連につき）
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術
小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）

結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき）
腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
同種死体腎移植術
生体腎移植術
尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
腟腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
腹腔鏡下腟式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
　（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
体外式膜型人工肺管理料
輸血管理料Ｉ
　輸血適正使用加算
同種クリオプレシピテート作製術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算

◆麻酔　麻酔管理料(Ｉ)
　周術期薬剤管理加算
麻酔管理料(Ⅱ)
　周術期薬剤管理加算

◆放射線治療　放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
１回線量増加加算
強度変調放射線治療(IMRT)
画像誘導放射線治療加算(IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算
直線加速器による放射線治療（一連につき）
　定位放射線治療呼吸性移動対策加算（その他）

◆病理　病理診断管理加算１
　悪性腫瘍病理組織標本加算

◆入院時食事療養　入院時食事療養（Ｉ）

◆歯科　クラウン・ブリッジ維持管理料
CAD/CAM冠

3　沿革

	年	月	
昭和	19.	4	熊本市四軒町18番地に日本赤十字社熊本支部診療所として開設（37床）
	20.	7	戦災にて焼失。診療所を熊本支部に移設
	25.	2	焼失跡地への建築工事竣工。熊本赤十字病院開設（53床）
	25.	10	生活保護法における医療機関の指定
	26.	10	結核予防法における医療機関の指定
	26.	12	優生保護法における医療機関『指定医』の指定
	27.	5	第3病棟増築工事竣工（記念病棟23床、本館5床増、旧病棟1床減、病床数合計80床）
	27.	8	完全給食、完全看護の許可
	28.	2	「日本赤十字社熊本支部」を「日本赤十字社熊本県支部」に改称
	29.	5	一部老朽化に伴い第2病棟4床減床（76床）
	29.	5	看護婦宿舎新築
	30.	3	第1病棟・調理室増築工事竣工（第1病棟35床、旧病棟4床増、病床数合計115床）
	31.	4	本館に3床を増床し、第1病棟4床と第2病棟10床を減床（104床）
	31.	11	記念病棟増築工事竣工（記念病棟36床、病床数合計140床）
	33.	4	赤十字看護婦の養成を福岡赤十字病院高等看護学院に委託
	33.	9	記念病棟を結核病棟に変更
	35.	10	原子爆弾被爆者医療一般疾病医療機関の指定
	40.	4	町名変更により、水道町7-5番地となる
	40.	12	救急告示病院として救急医療を開始
	41.	1	救急告示病院の指定
	48.	4	熊本県知事より開設許可（長嶺町：300床）
	50.	3	熊本市長嶺町への移転新築工事竣工
	50.	5	長嶺町2255番209へ移転。結核病棟を廃止し186床で開院
	50.	5	救急医療センター開設
	50.	8	300床稼働
	51.	5	救急医療センターに切断四肢（指）再接着センター併設
	51.	11	日本赤十字社名誉副総裁 常陸宮妃殿下 病院ご視察
	53.	6	北病棟（病院別館）新築工事竣工
	53.	6	日本赤十字社名誉副総裁 常陸宮妃殿下 落成式ご臨席
	53.	7	北病棟（病院別館）150床増床（450床）
	55.	1	総合病院の認可
	55.	3	救命救急センター増築工事竣工
	58.	9	第一回救急医療功労者厚生大臣表彰
	58.	10	医事業務にコンピュータシステム導入
	60.	8	会計・用度業務にコンピュータシステム導入
	62.	11	中央診療部門増改築工事竣工
	63.	12	腎センターを設置し、当院初の腎移植実施
平成	元.	5	日本赤十字社名誉副総裁 高円宮妃殿下 病院ご視察
	元.	9	栄養管理業務にコンピュータシステム導入
	2.	9	内科外来にコンピュータシステム導入
	2.	9	熊本県角膜・腎臓バンク協会事務局、県より移管
	3.	4	小児病棟に訪問学級を開設
	3.	7	循環器科、呼吸器科、消化器科を標榜
	4.	3	熊本県救急自動車医師看護師同乗及びホットラインシステム事業運用開始
	4.	3	熊本県医療審議会において30床の増床申請承認
	4.	10	28床増床（478床）
	5.	10	熊本県腎移植推進情報センター設置
	6.	3	国民生活センター「危害情報システム」稼動
	7.	1	阪神淡路大震災に対する医療救護を展開（1月18日～2月27日）
	8.	4	臨床研修病院の指定
	8.	8	全診療科の再診予約診療制を開始
	8.	10	にっせき総合情報誌「Dr．CROSS」創刊
	8.	12	災害拠点病院（基幹災害医療センター）の指定
	9.	2	町名変更により、長嶺南二丁目1番1号となる
	9.	3	医療法改正に伴い、理学療法科をリハビリテーション科へ変更

9.　8　日本赤十字社九州ブロック研修センター「アソシエート」建設工事竣工
10.　3　熊本赤十字病院全面移転新築工事第一期竣工（本館）
10.　5　一期工事竣工に伴い開院式
10.　5　熱傷病床（BICU）2床増床（480床）
10.　5　オーダリングシステム導入
11.　2　熊本赤十字病院全面移転新築工事第二期竣工（管理棟）
11.　3　日本赤十字社名誉副総裁 秋篠宮妃殿下 病院ご視察・
日赤熊本グランドオープン記念式典ご臨席
11.　10　慢性疾患児家族宿泊施設「アンリーハウス」新築工事竣工
12.　4　日赤熊本在宅サービスステーション開設
12.　6　特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」配備
12.　7　特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」及び救護班を九州沖縄サミット
救護のため沖縄県に派遣
12.　11　国際医療救援部を設置
12.　11　日本赤十字社名誉副総裁 三笠宮寛仁親王妃殿下 病院ご視察
13.　5　特定集中治療室（4床）を整備
13.　11　化学災害用除染設備を整備
13.　12　ホームページ開設
14.　8　総合グラウンド整備工事竣工
14.　9　第二ヘリポート竣工
15.　2　遠隔画像診断支援システム運用開始
15.　3　総合医療情報システム（オーダリング・医事システム・画像ファイリングシステム・
各部門システム）運用開始
15.　5　（財）日本医療機能評価機構『一般病院種別B』の認定取得
15.　6　外来部門診療順番表示システム運用開始
15.　7　電子レセプト導入
15.　9　スレイマニア教育病院（イラク・クルド人自治区）との医療技術支援事業に関する
合意議定書調印式
15.　10　神経内科を標榜
15.　10　アソシエート救護倉庫建築工事竣工
16.　2　熊本県小児救急医療拠点病院の指定
16.　2　日本赤十字社「重症急性呼吸器症候群（SARS）拠点病院」の指定
16.　4　ERU資機材を整備
16.　6　院内画像フィルムレス運用開始
16.　7　紹介患者外来診療予約システム運用開始
16.　10　院内全館禁煙の施行
16.　10　新潟県中越地震に対する医療救護を展開（10月25日～11月26日）
18.　4　医療連携室を開設
18.　4　歯科口腔外科を標榜
18.　4　総合血管センター（バスキュラーラボ）を開設
18.　6　医療安全推進室を設置
18.　7　DPC（診断群分類別包括評価制度）を導入
18.　10　セカンドオピニオン外来を開設
18.　12　ブラキセラピー（前立腺がんに対する小線源療法）稼動
19.　4　熊本県地域周産期母子医療センターの認定
19.　4　教育研修推進室を設置
19.　12　全館指静脈生体認証方式の運用開始
20.　2　地域がん診療連携拠点病院の指定
20.　7　特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」及び救護班を洞爺湖サミット救護
のため北海道に派遣
21.　3　電子カルテシステム、生理検査部門システム運用開始
21.　3　太陽光発電システム設置
21.　4　形成外科を標榜
21.　7　がん診療連携外来を開設
21.　9　総合鏡視下手術センターを開設
21.　11　紹介患者連携システム運用開始
22.　11　地域医療支援病院の指定

23.　3　東日本大震災に対する医療救護を宮城県石巻市を中心に展開（3月11日～5月31日）
23.　4　院内情報表示システム（外来部門）を導入
23.　12　立体駐車場及び第二ヘリポート整備工事竣工
24.　1　NPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定取得
24.　1　熊本県ドクターヘリ基地病院として運航開始
24.　4　熊本市の区制施行により東区長嶺南二丁目１番１号となる
24.　4　血液・腫瘍内科、乳腺内分泌外科、放射線治療科、救急科を標榜
呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、耳鼻いんこう科の名称変更
24.　5　こども医療センター・総合救命救急センター増改築工事竣工
24.　5　小児特例病床10床増床（490床）
24.　7　安全功労者総務大臣表彰
24.　9　こども医療センター全面オープン記念セレモニー
赤十字広報特使　藤原紀香さんオープニングセレモニー参加
25.　4　へき地医療支援センターを開設
25.　4　小児救命救急センターの指定
25.　4　熊本市救急ワークステーション運用開始
25.　6　精神腫瘍科を開設
25.　6　熊本県と災害医療コーディネーターの協定締結
25.　8　CT(320列)稼動開始
25.　9　病理診断科を標榜
26.　2　病院機能評価3rdGVer.1.0（機能種別：一般病院2）及び
付加機能評価（救急医療機能Ver.2.0）受審（平成26年5月2日認定）
26.　4　総合診療科部を設置
26.　10　第50回日本赤十字社医学会総会　熊本開催
26.　11　救急集中治療病棟（ECU）1床減床（9→8床）
26.　12　地域医療連携ネットワーク・くまもとクロスネット立上げ
27.　1　空調熱源機（空冷チラー）、コージェネレーションシステム機器更新
27.　3　総合医療情報システム（電子カルテ）更新
27.　3　MRI(3テスラ)稼動開始
27.　4　外傷外科部、IVR科部を設置
27.　4　こども病棟2床減床(こども2階病棟30→29床、こども3階病棟20→19床)
27.　4　小児集中治療病棟（PICU）2床増床（6→8床）
27.　4　妊娠と薬外来を開設
27.　5　地域医療連携ネットワーク・くまもとクロスネットシステム運用開始
28.　1　NPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定更新
28.　2　集中治療病棟、救急集中治療病棟（ICU16床）の統合
28.　3　職員病児・病後児保育室「ひだまり」開設
28.　4　熊本地震に対する医療救護を院内、南阿蘇村、西原村、益城町を中心に展開(4月14日～6月1日)
28.　4　リウマチ・膠原病内科部を設置
28.　7　日本赤十字社九州ブロック研修センター「アソシエート」閉館
29.　2　院内保育所「オリーブ」竣工（平成29年4月1日開園）
29.　3　地震被害にかかる建物等復旧工事完了
29.　4　感染管理室を設置
29.　4　四肢外傷再建外科部を設置
29.　7　公式Facebookページを開設
30.　3　日本水大賞　厚生労働大臣賞受賞
平成30年7月豪雨災害に対する救護活動を広島県・岡山県で展開（7月10日～8月11日）
30.　10　患者サポートセンターを開設
30.　12　脳卒中センターを開設
30.　12　熊本赤十字病院初の症例となる臓器提供を施行
30.　12　手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入
30.　12　日赤キャンパス敷地内全面禁煙施行
31.　2　病院機能評価3rdGVer.2.0（機能種別：一般病院2）及び
31.　3　付加機能評価（救急医療機能Ver.2.0）受審（令和元年5月2日認定）
31.　4　トータル・クオリティ・マネジメント（TQM）推進室を設置
移植医療支援室を設置
腎臓内科、リウマチ科、糖尿病内科、呼吸器外科を標榜
脳神経内科を名称変更
令和　元.　8　九州北部豪雨災害に対する救護活動を佐賀県で展開（8月29日～8月30日）

元.　11　卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定更新（4年）
元.　11　就業管理システム本稼動
元.　12　ハイブリッド手術室運用開始
2.　2　新型コロナウイルス感染症対策会議設置
2.　4　心血管カテーテル治療科部、小児集中治療科部、第二心臓血管外科部、
第二小児外科科部、医療社会事業課病床管理係を設置
重症外傷センター、心・大血管センター、熱傷センター、内視鏡センターを設置
ME（MedicalEngineer)からCE（ClinicalEngineer）に名称変更
新設　脳卒中集中治療病棟（ＳＣＵ）15床
増床　救急1階病棟（6→10床）、4階西病棟（40→44床）
減床　こども2階病棟（29床→23床）、こども3階病棟（19→17床）、
5階西病棟（46→31床）
新型コロナウイルス感染症対策本部設置
2.　5　熊本赤十字病院公式YouTubeチャンネルの開設
1.5TMRI装置「MAGNETOMSola」稼動開始
2.　7　令和２年豪雨災害に対する救護活動を展開（人吉・球磨地域、芦北・水俣地域）
（7月4日～8月28日）
2.　10　ISO15189の認定施設取得
3.　2　特定行為研修指定研修機関指定（救急領域）
3.　4　脳神経・外傷外科部、リハビリテーション科部第三理学療法係、心臓血管麻酔科部、
総務課医療調整係を設置
緩和ケアセンターを設置
3.　5　ＦＣ医療車共同実証開始セレモニー
3.　8　外来化学療法室の増床（14→22床）
3.　11　保険証等のオンライン資格確認開始
4.　1　熊本赤十字病院公式インスタグラム開始
4.　1　リウマチ科外来移設
4.　1　熊本県からドクターヘリ運航10周年の感謝状を授与
4.　4　第三循環器内科部、不整脈治療科部、
リハビリテーション科部　第二リハビリテーション課、
検体検査課　輸血・移植検査係、生理検査課　心血管カテーテル検査係、
企画開発課　経営企画係を設置
経営戦略室を設置
4.　7　臨床工学課　臨床工学係を設置
4.　10　ＤＸ推進委員会を設置
4.　11　がん集学的治療センターを設置
5.　4　大腸外科、肝胆膵外科、移植外科、病院前救急診療科
臨床工学部、第二臨床工学課、第三臨床工学課
入院業務課　体制再編係、企画開発課　ＤＸ推進係、器材管理課　器材管理係を設置
5.　7　輸血機能評価認定制度(inspection and accreditation : I＆A)受審（令和5年10月認定）
5.　8　熊本県「紹介受診重点医療機関」に指定
5.　10　外来業務課　保険請求係を設置
6.　1　小児腎臓科、小児消化器・肝臓科を設置
ＮＰＯ法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定更新
能登半島地震に対する医療救護を石川県珠洲市、輪島市、七尾市を中心に展開（1月9日～4月8日）

4　組織・運営

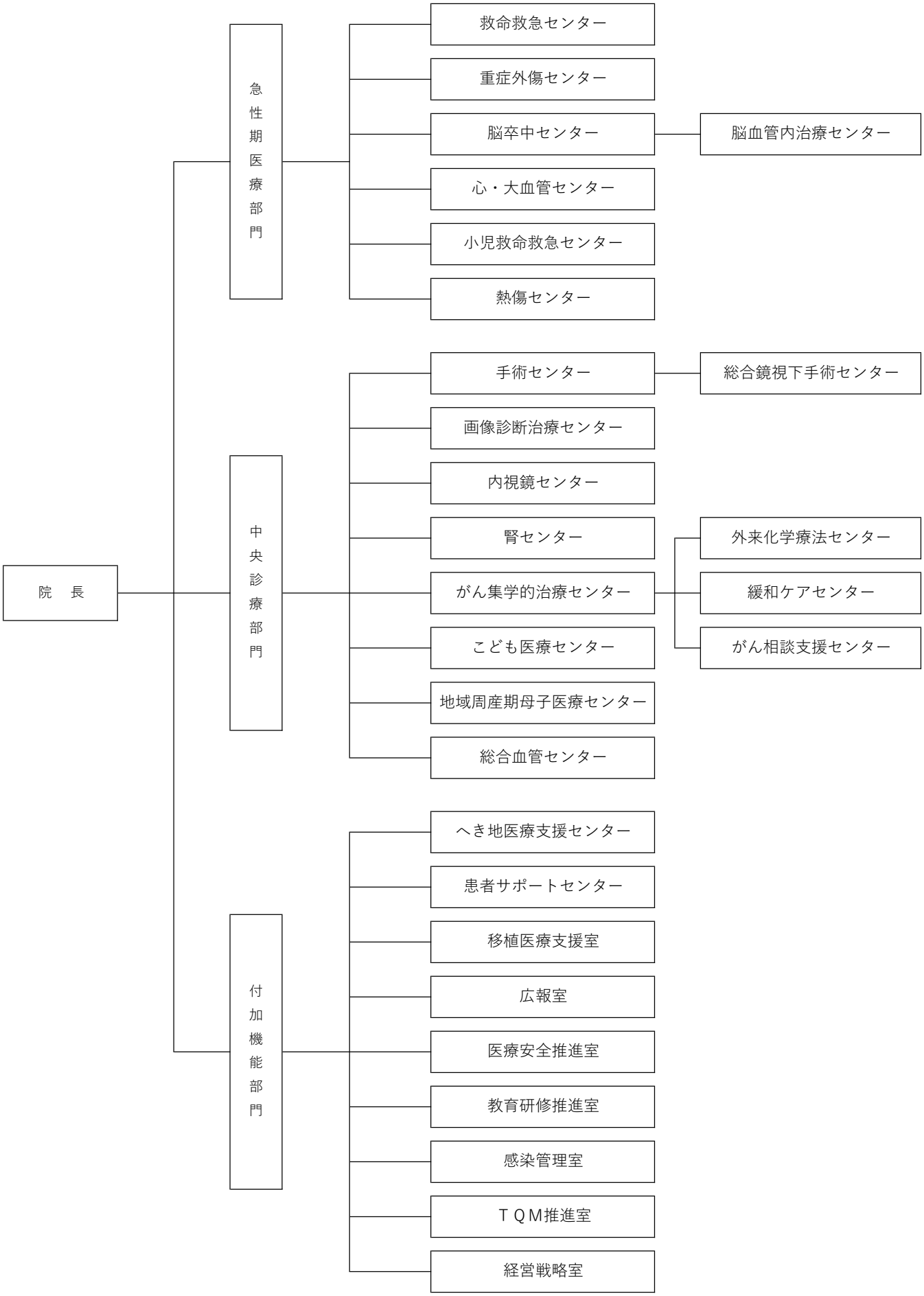
（1）院内組織図

令和６年４月１日現在

- 院長
  - 診療に関する科の部
    - 総合内科部
    - 総合診療科部
    - 腎臓内科部
    - 内分泌代謝科部
    - 血液腫瘍内科部
    - 緩和ケア科部
    - リウマチ・膠原病内科部
    - 脳神経内科部
    - 呼吸器内科部
    - 第一消化器内科部
    - 第二消化器内科部
    - 内視鏡科部
    - 第一循環器内科部
    - 第二循環器内科部
    - 心血管カテーテル治療科部
    - 不整脈治療科部
    - 第一小児科部
    - 第二小児科部
    - 小児腎臓科部
    - 小児消化器・肝臓科部
    - 小児集中治療科部
    - 第一外科部
    - 第二外科部
    - 上部消化管外科部
    - 大腸外科部
    - 肝胆膵外科部
    - 移植外科部
    - 呼吸器外科部
    - 乳腺内分泌外科部
    - 整形外科部
    - 関節外科部
    - 脊椎外科部
    - 四肢外傷再建外科部
    - 脳神経外科部
    - 脳神経外傷外科部
    - 第一心臓血管外科部
    - 第二心臓血管外科部
    - 小児外科部
    - 形成外科部
    - 皮膚科部
    - 泌尿器科部
    - 第一産婦人科部
    - 第二産婦人科部
    - 眼科部
    - 耳鼻いんこう科部
    - リハビリテーション科部
      - 第一リハビリテーション課
        - 第一理学療法係
        - 第二理学療法係
      - 第二リハビリテーション課
        - 作業療法係
        - 言語聴覚療法係
    - 放射線科部
      - 放射線技術課
        - 超音波係
        - ＣＴ・ＭＲＩ係
      - 放射線管理課
        - 一般撮影係
        - Ｘ線造影係
        - 放射線安全管理係
      - 放射線治療課
        - 放射線治療係
    - 放射線治療科部
    - ＩＶＲ科部
    - 第一麻酔科部
    - 第二麻酔科部
    - 第三麻酔科部
    - 心臓血管麻酔科部
    - 歯科部
    - 第一救急科部
    - 第二救急科部
    - 第三救急科部
    - 病院前救急診療科部
    - 外傷外科部
    - 集中治療科部
    - 病理診断科部
    - 臨床工学部
      - 第一臨床工学課
        - 腎センターＣＥ係
        - 医療機器管理係
      - 第二臨床工学課
        - 手術センターＣＥ係
      - 第三臨床工学課
        - 画像診断治療センターＣＥ係
        - 集中治療ＣＥ係
  - 国際医療救援部
    - 救援課
      - 救援係
      - 派遣係
    - 救援技術研究課
      - 救援技術研究係
  - 薬剤部
    - 調剤課
      - 調剤製剤係
      - 薬品管理係
    - 医薬情報課
      - 医薬情報係
    - 病棟薬剤課
      - 病棟薬剤係
  - 看護部
  - 検査部
    - 検体検査課
      - 輸血・移植検査係
      - 検体検査係
    - 生理検査課
      - 循環生理検査係
      - 神経・呼吸機能検査係
      - 心血管カテーテル検査係
    - 第一病理検査課
      - 病理検査係
    - 第二病理検査課
      - 細胞診検査係
  - 医療社会事業部
    - 医療社会事業課
      - 患者支援係
      - 病床管理係
    - 入退院支援課
      - 入退院支援係
    - 社会課
      - 社会係
    - 地域医療推進課
      - 地域医療推進係
  - 事務部
    - 人事課
      - 人事係
      - 給与係
    - 総務課
      - 総務係
      - 医療調整係
      - 施設係
    - 会計課
      - 会計係
    - 外来業務課
      - 医事係
      - 外来業務係
      - 保険請求係
      - 出納係
      - 交通事故係
    - 入院業務課
      - 入院係
      - 未収金係
      - 体制再編係
    - 栄養課
      - 栄養係
      - 調理係
    - 企画開発課
      - 開発係
      - 経営企画係
      - 広報係
    - 情報システム課
      - ＩＴ係
      - ＤＸ推進係
      - 統計係
    - 診療支援課
      - 診療支援係
      - 診療記録係
    - 教育研修推進課
      - 教育研修推進係
    - 購入管理課
      - 購入係
      - 供給係
    - 器材管理課
      - 器材管理係
      - 滅菌係
    - 救急業務課
      - 救命救急センター業務係
      - 救援調整係
  - 医療安全推進室
  - 教育研修推進室
  - 感染管理室

（2）センター・室　機能構成図

令和６年４月１日現在



（2）診療科別患者数前年度対比表

（単位：人）

診療科	年度	令和５年度 延患者数	令和５年度 １日平均	令和４年度 延患者数	令和４年度 １日平均	対前年度比 増減
内科	入院	22,853	62.4	21,508	58.9	1,345
	外来	25,035	103.0	27,776	114.8	△ 2,741
腎臓内科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	16,920	69.6	17,376	71.8	△ 456
リウマチ科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	9,913	40.8	8,868	36.6	1,045
血液・腫瘍内科	入院	7,916	21.6	9,271	25.4	△ 1,355
	外来	15,333	63.1	16,155	66.8	△ 822
精神腫瘍科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	389	1.6	416	1.7	△ 27
脳神経内科	入院	11,308	30.9	12,106	33.2	△ 798
	外来	5,185	21.3	5,535	22.9	△ 350
呼吸器内科	入院	5,668	15.5	6,290	17.2	△ 622
	外来	7,753	31.9	6,985	28.9	768
消化器内科	入院	16,155	44.1	15,439	42.3	716
	外来	18,702	77.0	17,874	73.9	828
循環器内科	入院	14,058	38.4	12,007	32.9	2,051
	外来	14,088	58.0	13,819	57.1	269
小児科	入院	8,486	23.2	7,779	21.3	707
	外来	28,954	119.2	27,070	111.9	1,884
外科	入院	11,879	32.5	12,224	33.5	△ 345
	外来	8,257	34.0	8,146	33.7	111
呼吸器外科	入院	1,030	2.8	803	2.2	227
	外来	947	3.9	696	2.9	251
乳腺内分泌外科	入院	924	2.5	675	1.8	249
	外来	6,351	26.1	5,905	24.4	446
整形外科	入院	12,632	34.5	12,812	35.1	△ 180
	外来	13,549	55.8	15,768	65.2	△ 2,219
脳神経外科	入院	9,636	26.3	9,556	26.2	80
	外来	5,939	24.4	5,925	24.5	14
心臓血管外科	入院	5,898	16.1	5,689	15.6	209
	外来	4,686	19.3	4,758	19.7	△ 72
小児外科	入院	916	2.5	724	2.0	192
	外来	2,613	10.8	2,410	10.0	203
形成外科	入院	2,152	5.9	1,662	4.6	490
	外来	5,751	23.7	5,340	22.1	411
皮膚科	入院	1,475	4.0	1,415	3.9	60
	外来	8,768	36.1	8,699	35.9	69
泌尿器科	入院	1,018	2.8	607	1.7	411
	外来	6,957	28.6	7,025	29.0	△ 68
産婦人科	入院	7,849	21.4	9,087	24.9	△ 1,238
	外来	16,193	66.6	17,070	70.5	△ 877
眼科	入院	369	1.0	340	0.9	29
	外来	4,548	18.7	5,116	21.1	△ 568
耳鼻いんこう科	入院	5,539	15.1	3,938	10.8	1,601
	外来	10,909	44.9	10,414	43.0	495
リハビリテーション科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	365	1.5	355	1.5	10
放射線科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	421	1.7	431	1.8	△ 10
放射線治療科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	2,108	8.7	1,314	5.4	794
麻酔科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	780	3.2	974	4.0	△ 194
歯科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	1,432	5.9	1,616	6.7	△ 184
救急科	入院	1,239	3.4	1,888	5.2	△ 649
	外来	1	0.0	0	0.0	1
合計	入院	149,000	407.1	145,820	399.5	3,180
	外来	242,847	999.4	243,836	1,007.6	△ 989

※糖尿病内科の延患者数は内科に含む。

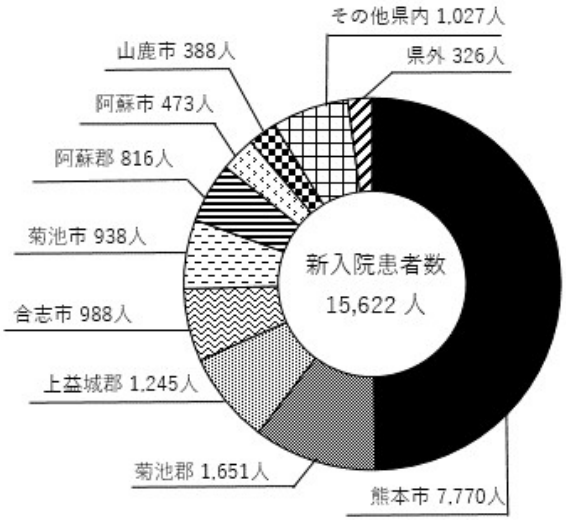
（3）入院及び外来患者数等

		令和５年度	令和４年度	対前年度増減
入院	病床数（床）	490	490	0
	病床延数（床）	179,340	178,850	490
	新入院患者数（人）	15,622	15,066	556
	患者延数（人）	149,000	145,820	3,180
	1日平均患者数（人）	407.1	399.5	7.6
	病床利用率（%）	83.1	81.5	1.6
	平均在院日数（日）	9.5（10.2）	9.7（10.3）	0.2（△0.1）
	病床回転数（回）	38.4	37.7	0.7
	1人1日当たり診療単価（円）	98,196	98,612	△ 416
外来	新患者延数（人）	56,426	55,224	1,202
	再来患者延数（人）	186,421	188,612	△ 2,191
	患者延数（人）	242,847	243,836	△ 989
	1日平均患者数（人）	999.4	1,003.4	△ 4.0
	平均通院日数（日）	4.3	4.4	△ 0.1
	1人1日当たり診療単価（円）	25,843	25,338	505
紹介患者数（人）		14,320	13,650	670
逆紹介患者数（人）		21,537	17,462	4,075
地域医療支援病院紹介率（%）		91.7	81.4	10.3
地域医療支援病院逆紹介率（%）		137.9	104.1	33.8

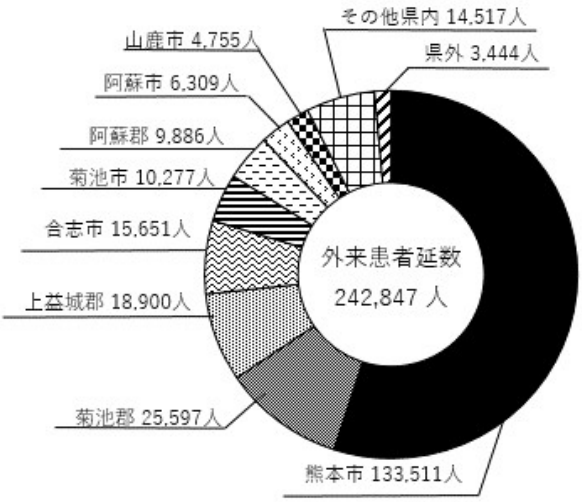
※平均在院日数（　）内は短期滞在手術料対象患者・特定入院料算定患者の一部・自費患者を除いた値

（４）診療圏別入院・外来患者数（年計）

（新入院患者数）



（外来患者延数）



（5）手術件数、検査件数等

		令和５年度	令和４年度	対前年度増減
手術部門	手術件数	5,294	5,170	124
	再掲）全麻	4,616	4,452	164
	再掲）局麻	673	718	△ 45
	鏡視下（再掲）	1,783	1,705	78
	カテ室手術件数	1,557	1,458	99
	主な外来手術	1,156	1,207	△ 51
	ペインクリニック	666	923	△ 257
診療部	外来化学療法数	5,142	5,477	△ 335
	治験実施件数	304	279	25
	分娩件数	167	205	△ 38
	腎移植件数	26	16	10
	人工透析 外来	7,910	9,026	△ 1,116
	入院	4,425	4,606	△ 181
	高気圧酸素療法	430	384	46
チーム医療	呼吸器ケア対象数	64	125	△ 61
	ICT巡回対象数	137	155	△ 18
	感染症巡回対象数	1,192	1,284	△ 92
	褥瘡ハイリスク件数	1,425	1,550	△ 125
	NST対象者数	424	620	△ 196
	摂食機能療法	975	885	90
薬剤部門	調剤数 外来	81,963	96,163	△ 14,200
	入院	138,209	135,008	3,201
	調剤延数　外来	942,674	1,062,248	△ 119,574
	入院	803,908	779,913	23,995
	薬剤管理指導件数	17,231	17,743	△ 512
放射線科部門	一般撮影件数	67,994	66,078	1,916
	CT撮影件数	26,044	25,448	596
	MRI件数	10,855	10,560	295
	血管造影件数	2,005	1,898	107
	内視鏡件数	7,687	7,714	△ 27
	RI件数	649	713	△ 64
	体外結石破砕件数	17	17	0
	ライナック件数	8,663	6,255	2,408
	ブラキテラピー件数	2	4	△ 2
検査部門	検体検査件数	3,009,072	2,875,107	133,965
	生理検査件数	60,748	57,456	3,292
	病理検査件数	13,263	12,691	572
栄養部門	栄養指導件数	2,692	1,865	827
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ部門	理学療法延数	33,557	25,820	7,737
	作業療法延数	14,325	15,176	△ 851
	心臓リハ延数	0	7,368	△ 7,368
	言語聴覚療法延数	11,783	11,836	△ 53

※手術件数のうち「全麻」には硬膜外麻酔、脊椎麻酔を含む。また「局麻」には静脈麻酔、伝達麻酔等を含む。

※心臓リハ延数は令和5年度から理学療法延数に計上。

（6）がん治療実績

① がん患者数

	令和５年度	令和４年度	令和３年度
年間がん入院患者数（実数）	2,436	2,396	2,611
年間がん外来患者数（延数）	66,570	65,880	65,694
年間部位別がん入院患者手術件数	1,039	955	1,067

② 部位別がん患者入院件数（上位10部位）

順位	部位名	件数
1	気管支及び肺	256
2	膵臓	230
3	結腸	183
4	胃	177
5	非ホジキンリンパ腫	164
6	胆のう・胆管	160
7	乳房	148
8	子宮	141
9	直腸および肛門	96
10	子宮頚部の上皮内癌	90

③ 部位別がん入院患者手術件数（上位10部位）※内視鏡手術は含まない

順位	部位名	件数
1	結腸	132
2	乳房	119
3	気管支及び肺	115
4	子宮頚部の上皮内癌	90
5	子宮	88
6	胃	84
7	直腸および肛門	73
8	膀胱	56
9	卵巣	48
10	肝及び肝内胆管	44

（7）救命救急センター

救命救急センターの基本理念　　『断らない救急』

救命救急センター理念に基づく基本方針

Anyone	**こどもからお年寄りまで　軽症者から重症者まで**
Anything	**診療科を問わずどんな疾患も**
Anytime	**２４時間３６５日　平時から災害時まで**

①　搬送別救急患者数

	救急車等（消防機関）		病院車	ﾄﾞｸﾀｰｶｰ	ﾄﾞｸﾀｰﾍﾘ	その他	合計
	救急車	防災ヘリ					
令和５年度	7,624	15	319	47	557	40,077	48,639
	15.7%	0.0%	0.7%	0.1%	1.1%	82.4%	100%
令和４年度	7,627	21	362	51	581	41,360	50,002
	15.3%	0.0%	0.7%	0.1%	1.2%	79.9%	100%
令和３年度	7,538	10	388	53	540	33,823	42,352
	17.8%	0.0%	0.9%	0.1%	1.3%	79.8%	100%

②　重症度別救急患者数

（単位：人）

	一　次	二　次	三　次	再掲／CPA	合　計
令和５年度	40,322	5,469	2,848	277	48,639
	82.9%	11.2%	5.9%		100%
令和４年度	41,711	5,609	2,682	296	50,002
	83.4%	11.2%	5.4%		100%
令和３年度	34,099	5,571	2,682	271	42,352
	80.5%	13.2%	6.3%		100%

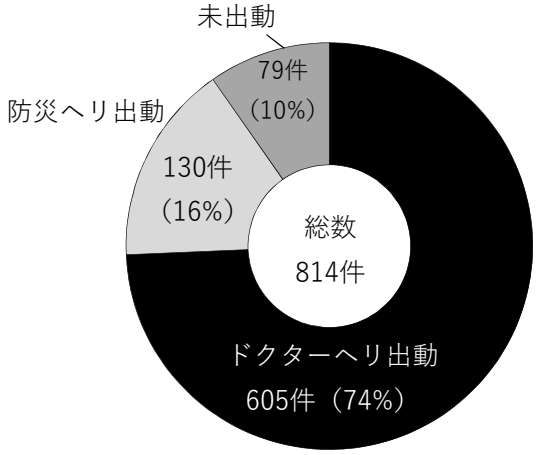
③　即日入院患者

（単位：人）

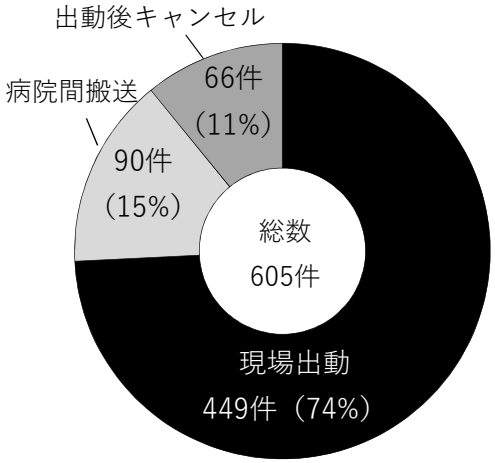
	総患者数	即日入院（再掲）	総患者数に対する入院の割合
令和５年度	48,639	7,874	16.2%
令和４年度	50,002	7,860	15.7%
令和３年度	42,352	7,843	18.5%

④ 熊本県ドクターヘリ実績

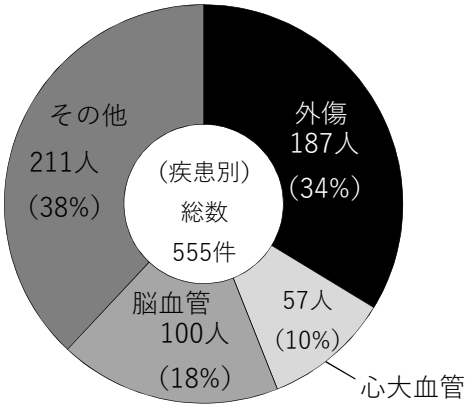
ドクターヘリ、防災ヘリ要請

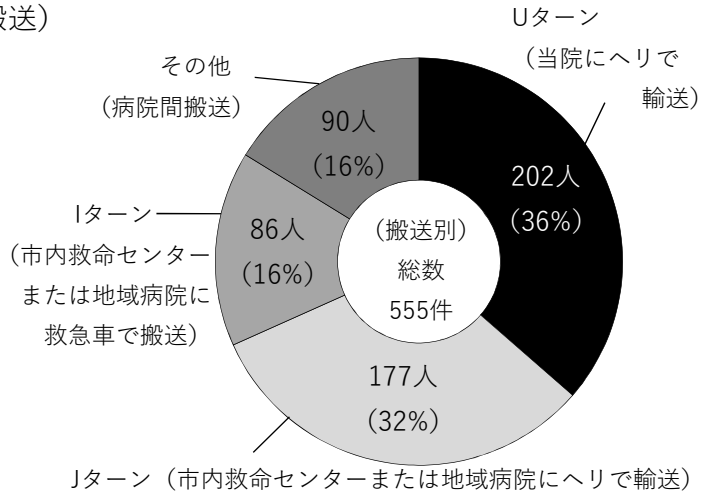


ドクターヘリ出動(要請内容別)



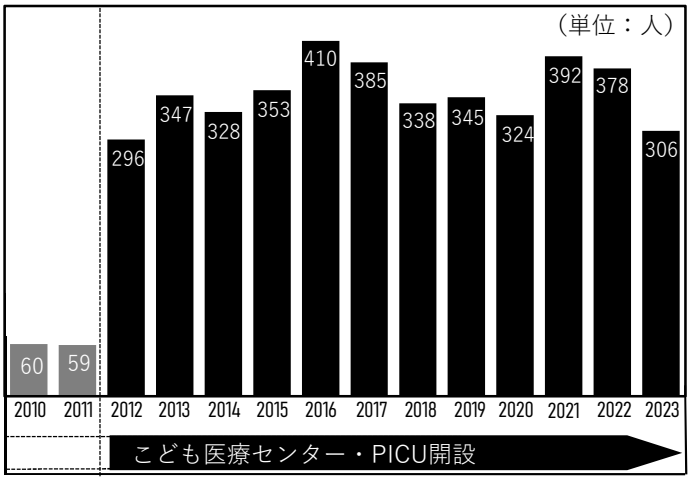
ドクターヘリ搬送患者数（現場救急・病院間搬送）



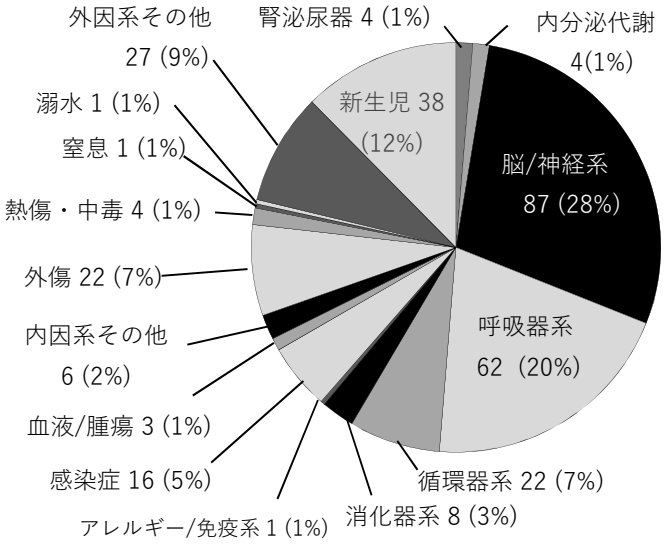


⑤ PICU（小児集中治療室）実績

PICU（小児集中治療室）入室患者疾患数推移



PICU入室患者疾患内訳



（8）医療救援＜国際活動＞

①派遣国別人数

年代	派 遣 国	事　　業　　名	人数
昭和55年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	5名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
昭和57年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	4名
昭和59年	エチオピア連邦民主共和国	干ばつ被災者救援事業	1名
昭和60年	スーダン共和国	干ばつ被災者救援事業	1名
昭和62年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
	ネパール連邦民主共和国	保健衛生事業	1名
昭和63年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
昭和64年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	1名
平成元年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
	ソビエト社会主義共和国連邦	地震被災者復興事業	1名
平成 2年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
	ケニア共和国	ケニア紛争犠牲者救援事業	1名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
平成 3年	シリア・アラブ共和国	湾岸戦争避難民救援事業	2名
平成 4年	ネパール連邦民主共和国	保健衛生事業	1名
	カンボジア王国	医療協力事業	2名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	3名
平成 5年	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	2名
平成 6年	ザイール共和国	紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
平成 8年	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
	ケニア共和国	紛争犠牲者救援事業	1名
	ルワンダ共和国	ザイール東部紛争犠牲者救援事業	1名
平成10年	アフガニスタン共和国	アフガニスタン北東部地震被災者救援事業	1名
平成11年	スーダン共和国	スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	アルバニア共和国	アルバニア・コソボ難民救援事業	1名
	トルコ共和国	トルコ地震被災者救援事業	1名
	中華人民共和国　台湾	台湾地震被災者救援事業	4名
	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	2名
平成12年	インドネシア共和国	スマトラ島ベングル沖地震被災者救援事業	1名
	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
平成13年	エルサルバトル共和国	地震被災者救援事業	1名
	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
	インド	インド西部地震被災者救援事業	9名
	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
	ペルー共和国	地震被害調査	2名
	シエラレオネ共和国	シエラレオネ紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
	アフガニスタン共和国	アフガニスタン地震被災者救援事業	7名
平成14年	イラン共和国	イラン地震被災者救援事業	1名
	リベリア共和国	リベリア紛争犠牲者救援事業	1名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
平成15年	イラン共和国	イラク人道危機関連調査	2名
	アフガニスタン共和国	アフガニスタン被災者救援事業	1名
	イラク共和国	スレイマニア教育病院医療技術支援事業	4名
	タンザニア共和国	タンザニア難民支援事業	1名
	アフガニスタン共和国	アフガニスタン被災者救援事業	1名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
	イラン共和国	イラン地震被災者救援事業	4名
平成16年	イラク共和国	スレイマニア教育病院医療技術支援事業	1名
	イラン共和国	イラン南東部地震被災者救援事業	6名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
平成17年	インドネシア共和国	スマトラ島沖地震津波復興被災者救援事業	20名
	パキスタン共和国	パキスタン地震被災者救援事業	9名
平成18年	インドネシア共和国	ジャワ島中部地震被災者救援事業	2名
	タンザニア共和国	タンザニア赤十字社難民支援事業	1名
	ケニア共和国	ケニア共和国洪水災害救援事業	1名
平成19年	タンザニア共和国	タンザニア赤十字社難民支援事業	1名
	スリランカ民主社会主義共和国	スマトラ島沖地震津波復興被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	10名
平成20年	ミャンマー連邦共和国	サイクロン被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	8名
	イラン共和国	在外邦人救急法等普及事業調査	6名
	ジンバブエ共和国	コレラ被災者救援事業	6名
平成21年	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	3名

年代	派 遣 国	事　　業　　名	人数
	ジンバブエ共和国	コレラ被災者救援事業	1名
	中華人民共和国　香港	基礎ERU研修会開催協力	6名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	6名
	パキスタン共和国	パキスタン紛争犠牲者救援事業	1名
平成22年	ハイチ共和国	ハイチ大地震救援事業	9名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	7名
	チリ共和国	チリ地震被災者救援事業	3名
平成23年	ハイチ共和国	コレラ罹患者救援事業	5名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	7名
平成24年	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	4名
	ウガンダ共和国	ウガンダ北部地区病院支援事業	1名
	イラク共和国	クルド地域医療市場調査班	2名
平成25年	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	5名
	フィリピン共和国	基礎保健RDフィリピン南部台風災害救援事業	2名
	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	フィリピン共和国	世界保健機構（WHO)西太平洋事務局派遣	1名
	ニカラグア共和国	JICAインターンシッププログラム	1名
	フィリピン共和国	フィリピン中部台風救援事業	4名
平成26年	シエラレオネ共和国	母子保健医療支援調査事業	2名
	レバノン共和国	シリア難民救援現地調査	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	4名
	シエラレオネ共和国	小児看護技術強化事業	1名
	ヨルダン・ハシミテ王国	シリア難民救援事業	1名
	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	ハイチ共和国	ハイチ地震被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	フィリピン共和国	フィリピン台風救援事業	1名
平成27年	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	2名
	ネパール連邦民主共和国	ネパール地震被災者救援事業	7名
平成28年	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	シエラレオネ共和国	小児看護技術強化事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
平成29年	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	2名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民支援事業	7名
平成30年	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民支援事業	3名
	レバノン共和国	パレスチナ赤新月社医療支援事業	1名
	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン・イスラム共和国	パキスタン紛争犠牲者救援事業	1名
平成31年	ヨルダン・ハシミテ王国	中東地域紛争犠牲者支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	ナイジェリア連邦共和国	ナイジェリア紛争犠牲者支援事業	1名
令和2年	レバノン共和国	パレスチナ赤新月社医療支援事業	1名
令和3年	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
令和4年	シエラレオネ共和国	シエラレオネ･中央こども病院サービス向上プロジェクト	2名
合　　計			294名

②職種別派遣者数（派遣事業）

	令和５年度までの合計
医師	128
看護師・助産師	76
薬剤師	3
放射線技師	20
事務・技術職	67
合計	294

（単位：人）

③国内での医療活動について

令和6年能登半島地震での給水資機材設置

令和6年1月1日に発生した能登半島地震で避難所となっていた、石川県の七尾市立山王小学校と七尾市立和倉小学校の断水による水不足および、衛生環境の改善を目的として、給水資機材と技術要員（the Blue Guys）3名を派遣し、浄水器・水用タンク・ランドリー用品・シャワーなどを設置した。

派遣者

期間	所属	派遣者（職種・氏名）
令和6年1月15日～令和6年1月23日	国際医療救援部	救援課長　曽篠　恭裕
令和6年1月15日～令和6年1月30日	臨床工学課	腎センターCE係長　黒田　彰紀
令和6年1月19日～令和6年1月23日	臨床工学課	主任　平岡 祐介

④保健医療ERU研修への参加

国際赤十字保健医療緊急対応ユニット（Health ERU）は、自然災害や紛争による大規模人口移動の際に国際赤十字が動員する緊急救援要員と野外医療施設資機材からなる国際医療救援チームである。

令和5年度は、救援要員の養成・登録するためのERU研修が兵庫県で開催され、熊本赤十字病院からは看護師1名が参加した。また、講師として臨床工学技士1名、看護師1名が参加した。

保健医療ERU研修受講者

開催地	所属	受　講　者（職種・氏名）
兵庫県	看護部	看護師　山崎　那実

保健医療ERU研修講師

開催地	所属	講　師（職種・氏名）
兵庫県	第一臨床工学課	腎センターCE係長　黒田　彰紀
兵庫県	看護部	手術センター看護主任　小林　賢吾

【災害救援技術の研究開発について】

①国際赤十字社会イノベーションネットワーク「RED Social Innovation」主催会議への参加

フランス・スペイン赤十字社が、赤十字における社会イノベーションの推進を目的として、２０２３年５月２５日～２６日にフランス・パリで開催した本会議に当院職員が招聘され、熊本赤十字病院における救援技術の研究開発の取組について講演した。

②国際赤十字・赤新月社連盟Global Innovation Summitへの参加

国際赤十字・赤新月社連盟イノベーション部門「Solferino Academy」が、２０２３年６月２６日から２８日までケニア・ナイロビで開催した本会議に当院職員が日赤を代表して出席し、トヨタ自動車との燃料電池車の共同実証等の取組について講演した。

③予測的人道支援（Anticipatory Action）国際会議への参加

国際赤十字予測的人道支援拠点（Anticipation Hub）が、２０２３年１０月９日から１１日までドイツ・ベルリンで開催した本会議に当院職員が出席し、熊本赤十字病院における災害時の避難支援手法の研究成果について講演した。

④受賞

当院職員による、赤十字における救援技術の研究開発と社会実装の取組に関する招聘講演が電子情報通信学会　２０２３年の電子情報通信学会　安全・安心ベストプラクティス賞を受賞した。

⑤国際赤十字・赤新月社連盟ホームページへの記事掲載

当院における、移動式水洗トイレの研究開発に関する記事が、国際赤十字・赤新月社連盟イノベーション部門「Solferino Academy」のホームページに掲載された。

https://solferinoacademy.com/movable-flush-toilet-bridging-the-gap-between-climate-change-mitigation-and-disaster-response/

（9）移植医療推進活動状況

①人材育成

医療従事者の知識向上を目的とした講演会の開催、並びに院外の複数医療機関と連携を取りながら、医療機関同士での質の向上に取り組んでいる。

②患者対応

患者（家族を含む）からの移植医療（臓器提供・臓器移植）に関する相談をはじめ、「意思表示の有無」等の情報収集や臓器提供に関わる関係者および臓器提供者の家族との連絡調整等を行っている。

③院内の体制整備

定期的に多職種で集合し、活動報告や症例検討を重ね、緊急症例に対応できるようシミュレーションの実施とマニュアルのアップデートを行っている。

2019年度に総合医局内に移植医療支援室を設け、「臓器を提供する側」と「臓器を移植する側」双方への支援を行いながら院内の連携強化・体制整備を図っている。

2023年度には、新たに臓器のあっせんに必要な検査を実施する特定移植検査センター業務契約を日本臓器移植ネットワークと締結し運用を開始。

また、日本赤十字社の血液事業のひとつで、白血病等の治療のために移植に用いる「さい帯血供給事業」にも参加した。

④普及啓発活動状況

毎年、臓器移植普及推進月間である10月には、病院の待合ホールでの資料展示や移植医療のシンボルカラーであるグリーンに屋上をライトアップするなどして普及啓発活動に努めている。

活動の様子は、病院のＳＮＳや日本臓器移植ネットワークのホームページを通して院内外へ情報発信を行っている。

また、熊本県腎移植者の会が主催する「黄色い羽根募金活動」および、熊本県移植医療推進財団の賛助会員募集など、関係団体が実施する移植医療の活動にも協力している。

（１０）腎移植診療

当院では、1988年から腎移植診療を開始し、これまでに420例以上の腎移植を実施している。

近年、腎移植を希望される方が増加しており、当院ではより質の高いチーム医療の実践を目指し、複数の診療科（外科、総合内科、腎臓内科、泌尿器科、産婦人科、小児科、麻酔科など）と移植コーディネーターを中心とした多職種（薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、事務職員など）でチームを構成し、密接に情報共有を行いながら毎月2～3例の腎移植を実践している。

また、ハイリスク症例にも積極的に取り組み、ＡＢＯ血液型不適合腎移植、抗ＨＬＡ抗体陽性腎移植、二次移植などを行っている。

2019年度には総合医局内に移植医療支援室を設け、「臓器を提供する側」と「臓器を移植する側」双方への支援を行いながら院内の連携強化・体制整備を図った。

今後も移植医療の推進のために院内外に向けて情報発信を行っていく。

（１１）慢性疾患児家族宿泊施設（アンリーハウス）利用状況

アンリーハウスは、慢性疾患児の付添い家族の宿泊に伴う経済的負担と、入院児童の情緒不安を解消することを目的として、平成11年に国の補助金を受けて建設。鉄筋コンクリート造、２階建て、トイレ・バス完備で部屋数は5部屋。

	令和５年度	令和４年度	令和３年度
利用部屋数	260	137	177
稼働率	14.2%	7.5%	9.7%
小児利用部屋数（再掲）	99	53	101
小児利用率	38.1%	38.7%	57.1%

※１名１室　1,100円（税込）
　２名１室　1,320円（税込）

6　施設概要

令和６年４月１日現在

(1)　概　　観

① 所　在　地　　熊本市東区長嶺南二丁目1番1号

② 敷 地 面 積　　63,284.98㎡

建 築 面 積　　18,704.17㎡

延 床 面 積　　70,617.00㎡

病院本館棟	ＳＲＣ造　地下1階・地上9階・ＰＦ1階	42,914.86 ㎡
管理棟	ＲＣ造　地上2階	2,899.88 ㎡
エネルギー棟	ＲＣ造　地下1階・地上2階	2,089.35 ㎡
救急棟	ＳＲＣ造　地下1階・地上6階	13,154.08 ㎡
立体駐車場	Ｓ造　地上5階	8,470.13 ㎡
付属施設		1,088.70 ㎡

③ 駐 車 台 数　　562台（来院者用）

(2)　特　　徴

＜診療機能＞

新生児から高齢者まで緊急度・重症度の高い症例も対応可能な「総合救命救急センター」・「こども医療センター」を併設。集中治療室「ICU・G-ICU・SCU（脳卒中集中治療室）・PICU（小児集中治療室）」を整備。

がんの治療・診断を主眼に高度医療機器（MRI・CT一体型ライナック・320列マルチスライスCT・CRシステム他）を配備した「画像診断治療センター」、手術支援ロボット「ダヴィンチ」、ハイブリッド手術室を有する回収廊下方式の手術室（11室）の設置。

＜情報管理＞

総合医療情報システム(電子カルテ）、「医療情報管理センター」による医療情報の一元化。

物流システム（SPD）導入による効率的かつ迅速な薬品・物品管理供給体制。

医療社会事業部、地域医療推進課の設置、地域連携システムの導入などにより、地域の医療機関との情報交換を推進。

＜防災対策＞

県下の基幹災害拠点病院として、耐震構造の強化（基準の25％増）。ヘリポートの設置、大規模災害時の大量被災者収容のため外来待合ホール、救急待合ホール、多目的ホールに医療ガス管の配備、また自家発電装置、災害備蓄倉庫（本館地階、500㎡強）、大型受水槽増設によりライフラインの確保。

ヘリポート（ドクターヘリ離発着、重篤患者受入、常備救護班搬送）

	第1ヘリポート(本館)	第2ヘリポート(立体駐車場)
離着帯の種類	飛行場外離着陸場 (BK117C-2)	飛行場外離着陸場 (BK117C-2)
着陸帯の強度	5.4 ｔ まで	11.0 ｔ まで
着陸帯の面積	225 ㎡	605.1 ㎡
備　　考		各種指示灯を装備し、夜間の離発着も可能。

＜療養環境＞

入院部門：

室料差額個室124床、重症加算対象個室12床、多床室は1室3床又は4床。

全室にトイレ、洗面台、個人用ロッカー設置。各ベッドにはテレビ、冷蔵庫、床頭台を常備。

外来部門：

各診療科のブロック配置。患者への情報提供として外来情報表示システム。

個人情報保護を目的とする患者番号呼び出しシステム。

マイナンバーカードの保険証利用のマイナ受付設置。

（3）施　設　設　備

〈水〉

飲料水は熊本市から供給を受けている。平成21年3月には災害対応用として受水槽2槽（187ｔ）を追加設置、合計 4槽で353.2ｔの貯水が可能である。

また、井水は、井戸2本から空調用、トイレの洗浄水用として、受水槽2槽で合計290ｔの貯水が可能であり、外部からの供給がない場合でも、節水対応により使用量約3日分の水を確保している。

	用　　途	貯　水　量
市水	飲料水等	4槽　合計353.2ｔ
井水	空調用、トイレ洗浄水等	2槽　合計290ｔ

〈電力〉

電力事業者から6,600Ｖ本線と予備線の2回線受電により、本線が停電しても予備線からの受電が可能である。

また、２回線とも停電した場合は、非常用発電機６基、ガスコージェネ発電機２基により、災害等の非常時にも継続して電力を供給することが可能である。備蓄する燃料量から約3日間の稼動が可能である。

発電容量

① 本　　館　800ｋＷ1基、400ｋＷ1基、28.8ｋＷ1基
　　コージェネ発電機400ｋＷ2基

② 救　急　棟　800ｋＷ1基、208ｋＷ1基

③ 立体駐車場　84ｋＷ1基

〈太陽光発電システム〉

大規模災害対応と環境への貢献を主眼とし、平成21年3月に太陽光発電システムを導入。本館西病棟屋上、管理棟屋上、外来駐車場に太陽光電池パネルを設置。さらに平成24年5月には救急棟屋上への追加設置により、合計1,476枚のパネルで308ｋＷの発電能力を有する。

災害時にライフラインがストップした場合でも、避難所で使用する通信機器や夜間照明用電源などの最低限のエネルギー確保が可能。

環境への貢献としては、1 年間で原油換算節減は約 9.8 万リットル（ドラム缶約 493 本分）CO2 の削減量は約 73.9 トン、森林面積に換算すると約 62ha となり、これは標準世帯の約 74 世帯分に相当する。

①用途

施設内照明、空調等

②太陽電池容量

308kW（208.4W×1476枚）

・本館西病棟屋上　95kW（208.4W×456枚）
・本館北西側屋上　30kW（208.4W×143枚）
・管理棟屋上　90kW（208.4W×434枚）
・外来駐車場　33kW（208.4W×155枚）
・救急棟屋上　60kW（208.4W×288枚）

③太陽電池種類

多結晶シリコン

（4）施設配置表

令和６年４月１日現在

＜本館＞

	西　病　棟	東　病　棟
屋上		第1ヘリポート
8階	国際医療救援部、社会課、会議室、電話交換室、ボランティア室、がん相談支援センター、情報システム課、サーバー室	内科、呼吸器内科、皮膚科
7階	内科、消化器内科	外科、内科、消化器内科
6階	循環器内科、心臓血管外科、内科、脳神経内科	泌尿器科、耳鼻いんこう科、外科
	心大血管リハビリテーション室	
5階	脳卒中センター、脳神経外科、脳神経内科、脳卒中集中治療病棟(ＳＣＵ)	整形外科、形成外科
	病棟リハビリステーション	
4階	眼科、消化器内科、血液・腫瘍内科	産婦人科、LDR、新生児室
3階	救命救急病棟（ＧＩＣＵ３）	集中治療病棟（ＩＣＵ）
	腎センター（人工透析室）、検体検査センター、手術センター	
	臨床工学課、病理診断科部など	
2階	外来（循環器内科、心臓血管外科、総合血管センター、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、	
	泌尿器科、産婦人科、リウマチ科）、総合リハビリテーション、総合処置室、	
	医療社会事業課、入退院支援課、地域医療推進課、入院業務課、診療支援課、企画開発課、	
	経営戦略室、広報室、移植医療支援室、図書室、購入管理課、器材管理課、栄養課、	
	栄養指導室、薬剤部、管理部門（会議室、電カル室、医局、更衣室、職員食堂）など	
1階	外来（眼科、耳鼻いんこう科、脳神経外科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、	
	内科、腎臓内科、糖尿病内科、整形外科、外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、	
	皮膚科、形成外科、血液・腫瘍内科、精神腫瘍科、小児科、小児外科）、	
	総合処置室、点滴室、外来化学療法センター、緩和ケアセンター、生理検査センター、	
	内視鏡センター、画像診断治療センター（放射線科、放射線治療科）、	
	外来業務課（初診、支払い窓口）、患者サポートセンター（入院・検査説明）、	
	相談室、薬局、解剖室など	
地階	災害備蓄倉庫、霊安室、荷捌き場、リネン室など	

＜管理棟＞

2階	人事課、総務課、会計課、医療安全推進室、教育研修推進課、教育研修推進室
	感染管理室
1階	総合案内、面会受付、ショッピングモール、レストラン

＜エネルギー棟＞

2階	エネルギーセンター（電気室、コージェネ室、非常用発電機室）
	ハウスキーパー室
1階	防災センター（中央監視室）、熱源機械室
地階	廃棄物保管庫

＜救急棟＞

6階	電気室、発電機室
5階	研修・研究センター（総合シミュレーションルーム、視聴覚研修室、研修室）
4階	研修・研究センター（多目的ホール、研修ホール）
3階	こども医療センター（小児集中治療病棟　（ＰＩＣＵ）　）
	（こども病棟（小児科、小児外科、整形外科））
2階	こども医療センター（こども病棟（小児科、小児外科、整形外科）、病児・病後児保育室）
1階	救命救急センター、救急１階病棟（ＧＩＣＵ１）、救急業務課
地階	地下会議室、当直室

＜立体駐車場＞

5階	第２ヘリポート、運航管理室（ＣＳルーム）、ヘリ格納庫
2～4階	来院者用駐車場
1階	来院者用駐車場、大型車駐車場、公用車駐車場、救援資機材用倉庫

赤十字基本原則

1965 年ウィーンで開催された 第 20 回赤十字国際会議決議

第 20 回赤十字国際会議は、赤十字の活動の基礎である次の基本的諸原則を宣言する。

人　　道

赤十字は戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的および国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字はすべての国民間の相互理解、友情、協力および堅固な平和を助長する。

公　　平

赤十字は国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。
赤十字はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

中　　立

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字は戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

独　　立

赤十字は独立である。各国赤十字社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律にしたがうが、つねに赤十字の諸原則にしたがって行動できるようその自主性を保たなければならない。

奉　　仕

赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織である。

単　　一

いかなる国にもただ一つの赤十字社しかありえない。赤十字社はすべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世 界 性

赤十字は世界的機構であり、そのなかにおいてすべての赤十字社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。